

平成 30 年度第 1 回三浦市総合教育会議会議録

○日 時 平成 31 年 3 月 26 日（火） 午後 1 時 30 分～午後 2 時 19 分

○場 所 三浦市役所第 2 分館第 1 会合室

○次 第

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 議 事
 - (1)三浦市の学校教育現場における働き方の改善について
 - (2)小学校の適正化について
 - (3)その他
- 4 閉 会

○出席者（6名）

市 長	吉 田 英 男
教 育 長	及 川 圭 介
教育長職務代理	下 里 矩 生
教 育 委 員	玉 井 恵 理
教 育 委 員	廣 瀬 牧 実
教 育 委 員	越 智 康 一

○説明のために出席した職員

教育部長兼青少年教育課長兼図書館長	君 島 篤	教育総務課長	増 井 直 樹
学校教育課長	高 梨 真 一	学校給食課長	松 下 彰 夫
文化スポーツ課長	塚 本 孝 治	南下浦市民センター館長	松 井 住 人
初声市民センター館長	見 上 正 行		

○事務局出席者

教育総務課教育総務グループリーダー	長 島 正 紀
-------------------	---------

○傍 聴（4名）

○君島教育部長 定刻となりましたので、ただいまより、「平成30年度第1回三浦市総合教育会議」を開会いたします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項により、原則公開となりますので、ご承知おきください。

(傍聴希望者がおり議長(市長)に許可を受け傍聴者が入室)

はじめに、会議の主催者であります吉田市長からご挨拶をいただきます。市長、お願いいたします。

○吉田市長 今年度第1回目の総合教育会議です。もう年度も終わりでありますのに、第1回目ということで非常に不満ではありますが、総合教育会議を開催させていただきたいと思っております。

今日は学校教育現場の働き方の改善や、今後の小学校の適正化についての検討スケジュールについてご相談をさせていただきたいと思っております。小学校の適正化については、これまでも総合教育会議のテーマで何度か協議をしてきておりますが、今後の三浦市の学校教育の在り方、進め方についての基本方針というものを早々に作っていく必要があるかと思っております。

ぜひ色々ご提言、ご指導を頂けたらと思っております。皆さんの忌憚のないご意見を頂戴できたらと思っております。今日はよろしくお願いいたします。

○君島教育部長 ありがとうございます。

それでは、次第3の議事に移らせていただきます。

議事の進行につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4において、地方公共団体の長が総合教育会議を設け、また、招集することになっておりますので市長に議長をお願いします。

市長、お願いいたします。

○吉田市長 それでは、議長を務めさせていただきます。

本日の議事は2つあります。

まず一つ目は「(1)三浦市の学校教育現場における働き方の改善について」になりますが、事務局から説明をお願いします。

○高梨学校教育課長 三浦市の学校教育現場における働き方の改善に向けての取組状況について報告させていただきます。

資料1をご覧ください。

資料に沿って、補足しながら大きく4点、「教育委員会の取組」「校長会の取組」「各学校の主な取組の現状」「今後に向けた課題」についてお話をさせていただきます。

はじめに、教育委員会の取組についてです。

三浦市では、今年度より、タイムカードシステムを市内全小・中学校に導入いたしました。タイムカードの導入により、まとまった1か月の自分の勤務実態を視覚的に確認し、各教職員が自分の働き方を振り返ることができるようになりました。また、管理職の側からすると、全教職員の勤務状況を一覧表の形で確認することができ、労務管理者としての意識を再確認することにも繋がっていると考えております。

また、今年度より、近隣市町と同様、夏季休業期間に学校閉校日を導入しております。次年度より、三浦市、逗子市、葉山町、寒川町が共通して、8月第2日曜日に続く3日間を学校閉校日とするよう決めました。これについては、今後学校に周知していくことになっております。

次に、校長会の取組についてです。

三浦市校長会では、「三浦らしい教職員の働き方改革について」～働き方改革の視点や工夫を探る～というテーマのもと、各学校の取組について情報共有、意見交換を行い、それをもとに更に各学校の取組に生かすようにしております。

次に、各学校の主な取組の現状についてです。

①勤務時間の意識づけとしましては、ノー残業デーを設定し、月間行事予定表にも記載することで、教職員に勤務時間を意識した働き方を意識させることや、運動会等、通常の勤務時間前に勤務が必要な場合には、勤務時間を変更し前にずらすことで勤務時間を意識した働き方を意識させている学校もあります。

②学校事務・授業づくりについては、授業技術、教材研究の仕方を、ベテランや中堅教員が意識して若手教員に伝承することで、長い目で見た時間短縮という意味でも働き方を伝えたり、教材の工夫や、教材を共有することで誰もがすぐに使えるようにしている学校もあります。

また、仕事の効率化については、学習予定表と学級通信、通信簿と要録など、同時に進めるという基本的なことについても、積極的に若手の教員に伝えています。

併せて、同僚同士の仕事の配分、例えば家庭訪問期間中には学級担任以外の同僚職員が学級事務をするなど、職員全員が意識するような働きかけも行っております。自分ができることをフォローしながら行うということをやっております。

また、次年度の繁忙期の業務を前年度のうちに準備していくことや、他の担当者が楽になることを意識して、その仕事をその場限りでなく、後継者にも有利になるように仕事を進めていくようにしております。

③児童・家庭への対応につきましては、担任だけで抱え込むのではなく、組織として対応することや、外部機関、教育委員会と積極的に連携することで、結果として短期間に解決するよう取り組んでおります。

④会議の持ち方については、開始時刻の徹底と終了時刻を意識した進行や、議題の精選と事前準備、例えば事前に資料を配布して目を通してもらうことをしたり、朝の打合せを廃止して、週1回の夕方の打合せを実施している学校もあり、効果を上げております。

⑤小規模校のデメリットの解消、その他につきましては、チームで対応することを心がけており、複数学年チーム、複数教科チームなど小回りが利くようにしております。

また、一人分掌では仕事を抱え込む傾向にありますので、重層的な体制づくりを意識したり、職員室内での情報共有の習慣化を図っている学校もあります。少ない人数だからこそすぐに集まりやすいので、隙間時間を有効に活用した打合せ等も行っております。

また、長期休業期間中の当番の廃止等を行っている学校も徐々に増えてきております。

最後に、働き方改革における現状での課題についてです。

教頭の働き方改革の推進、年次休暇の取得、効率化の技術の更なる向上、持ち帰り仕事等、トータルの仕事時間の改善、部活動指導における働き方改革等が挙げられます。

また、資料には記載しておりませんが、中学校における進路事務の状況についても大きな課題と認識し、積極的に進路事務負担の軽減について県に訴えていきたいと考えております。

今後も近隣市町と情報共有を密にしながら、改革を進めていきたいと考えておりますし、有効な情報については市教育委員会としても積極的に情報提供を行っていきたいと考えております。

以上で説明を終わります。

○吉田市長 ありがとうございます。

説明は終わりました。ご質問等がありましたらお願いいたします。

○及川教育長 質問ではありませんが、市の取組として、タイムカードということで行っておりますけれども、昨年の6月から試行、9月から本格始動ということで勤務時間の確認を行っております。私はその時学校現場におりまして、やはり教員というのは、勤務時間の意識が薄いというのは前から言われていましたけれども、改めて自分の勤務時間というのを、数字で示す事によって、自分はこのくらいの時間仕事をしているのか、超過しているのかということ、各自が意識できたということにおいては、かなり有効なものだと思っています。

タイムカードについては近隣市町に先行して三浦市で実施していますけれども、そういうことを先日の三浦半島教育長協議会の中でもお伝えしながら、他市も準備は進めているということです。他市の状況なども今後は情報共有しながら、より良い活用の仕方について考えていくことができればなと思っています。

○下里教育長職務代理 よろしいですか。

タイムカードのシステムは分かりますけれども、理解できないのは、練習試合で直接家から練習試合の会場等に出かける場合の処理の仕方はどういう風に考えているのか教えていただけますか。

○高梨学校教育課長 実際に練習試合となりますと、校外に出ている学校には寄らないわけですので、後日担当教諭から、教頭の方に自己申告していただいて、管理職がタイムカードの修正入力をしている形になります。

○下里教育長職務代理 分かりました。

○吉田市長 タイムカードは、給与に反映するというのではなくて、労働時間の実態を把握するためだけのものですね。

○高梨学校教育課長 はい。

○吉田市長 要はこれをやることによって、教員一人一人が何時間働いたかという認識を持ってもらうというだけのことですよね。

タイムカードを導入したことによって、自分の労働時間が把握できるということは、個々人の管理を今までやっていなかったということであって、別に数字で示したからといってどうということはないんじゃないですか。影響はありましたか。

○及川教育長 校長会の取組に書いてありますけれども、三浦らしい教職員の働き方改革ということで、三浦らしさというのは、この市の学校数、規模ですので、横のつながりですとか、地域のつながりを生かしながら働き方改革を進めていこうじゃないかということをもとにして、今年度は各学校の取組、校長の考えていることなどを校長会議の中で出し合って、協議しながら、より良いものを取り入れながら進めていこうということをやっているわけです。

やはり、そういうことを意識することによって、各学校の取組の中にも出てきましたけれども、これまでも行っていることではあるけれども、それを更に意識しながら、時間を効果的に使って学校の仕事を進めていこうという、そういう意識は高まっているので、時間を把握することから始まって、働き方を変えていこうという意識が出てきたということは事実ではないかと思います。

○吉田市長 他によろしいですか。

○玉井委員 勤務時間について、いくらタイムカードシステムを設けても、残業というものが多くなってしまうと思うんですけれども、その点で、ノー残業デーというのはすごく画期的な取組で、例えば一般企業だと、かえって働き方改革ということで、働きすぎる人に対して管理職が管理することが余計ストレスになるという話も聞きます。

ですので、メリハリをつけてノー残業デーを設けて、その日は管理職が促さなくても、終わったら帰る、電気を消すというようなことが、強制的なやり方であってもできているというのは、良いことではないかと思います。

○吉田市長 他にございますか。

○廣瀬委員 質問というより意見かもしれないですけども、近年道徳とか英語教育など新たな学習というものも、すごく増えていて、また家庭への支援ということも、前よりも増えているんじゃないか、求められているものが大きくなっているんだろうなと思うんですね。

望まれることがすごく増えているのに、働き方改革というのが、現場としては苦しいところなんじゃないかなと思います。ですので、何の業務が教師の負担となっていて、改善していかないのはどういう原因なのかということも、もっと深く追求して明確化していかなければならないのかなというところと、やはり急に改善していくことは無理というか、すぐには全てが上手くはいかないと思うんですけども、色々な工夫をして取り組まれている中で、昨年よりは今年少しでも改善したなというような積み重ねというものを、やっていかなければいけないんじゃないかなと思います。

あと、やはり教師が教壇に立っている時間よりも、事務仕事のようなものが莫大にあるんじゃないかなと思うんですね。そういうものに対して、ICT化の活用など事務の負担を改善するようなものは、今どのくらい進んでいるのでしょうか。

○高梨学校教育課長　例えば一例ですと、通知表は手書きで書いていたものを、現在はパソコンで入力することによって反映させることができるようになっていたり、名簿と他の連絡網が連携するようなシステムを使っているという例はあります。

成績等も全て連動するような新システムも今後導入する予定ですけれども、そういうところも視野に入れながら、業務の効率化を図っていかねばならないと考えています。

○廣瀬委員　十分に効率化していくためのパソコンの台数ですとか、そういうものは各学校整っているものなんでしょうか。

○高梨学校教育課長　パソコンの台数につきましては、近隣市町に比べましても、三浦市は各教職員に1台校務用パソコンとして割り当てられていますし、その部分については整備されていると思います。あとはソフト面での工夫をしていくということだと思います。

○廣瀬委員　ありがとうございます。

○吉田市長　他にございましたらどうぞ。

○越智委員　生徒とか、子どもとか、保護者に関わる部分の変化については、十分に丁寧な説明をしないと、不信感を持たれる危険性がありますので、ただ働き方改革がどうだということだけではなくて、変わる部分については十分に丁寧な説明をしてご理解いただくような措置は取るように、ぜひサポートをお願いしたいというのが1点です。

それからもう1点は、やっぱり指導者の資質向上とか、指導力の向上というのが一番大きなポイントになるんじゃないかなと思うんですね。ですから、例えば2時間かけて授業のことをやる人と、1時間でやる人と、教員でも個人差が大きいわけです。単に時間だけの問題ではなくて資質の問題もあるんですけれども、難しいとは思いますが、やはり指導力の向上とか、資質の向上とか、そういう点でもサポートをぜひよろしく願いいたします。

それと働き方改革が、矛盾する可能性はあるわけです。指導力向上ということでアップさせようとする、例えば研修を増やすとか、そういうことをすると、また時間がかかって勤務時間が増えるということで、矛盾してくる可能性があるんですね。それを矛盾しないような形でどういう風に指導力とか資質を向上させていくかということについて、知恵を出していかないと難しいんじゃないかなと思いますけれども、ご指導よろしく願いいたします。

○及川教育長　働き方改革というのは、今越智委員がおっしゃったように、子どもに向き合うとか、教育のために教員が学習し、授業のために割ける時間を多くすることができるようにすることが一番。つまり働き方改革をすることによって、教育の質を高めるということが一番の目的でなければならないと思うんですね。

そういうために、今あるままで、教育の質を充実させろということになれば、教員の働く時間がどんどん増えていくことになるんだけど、授業のための時間を割ける、そういう手立てを取っていくという視点で行けば、例えば保護者の意識を改革していくというのは、一つ大きなポイントになってくるんじゃないかなと思うんですね。子どもに関わることは全て学校に頼る、先生に頼るという部分が社会的にまだ多いのかなと思うので、保護者への丁寧な説明というのはもちろんそうですが、こういうことをやることによって子どものためになるんだということを保護者、地域に丁寧に説明しながら、進めていくことが大切なのかなと思います。

○吉田市長 他にございますか。

○玉井委員 資料を見せていただいて、ストレスチェックの実施というのもご提案されていたことがあるんですけども、例えばスクールカウンセラーというのは子どもたちのためですが、学校の先生のためにストレスチェックですとか、カウンセラーなどの配置というのは、三浦市はどのようにされているのでしょうか。

○高梨学校教育課長 スクールカウンセラーにつきましては各学校に定期的に配置するようになっています。これは、子ども、保護者もそうですけれども、教員も対象となっています。ストレスチェック等につきましては、現状ではまだ導入しておりませんが、課題意識は持っております。

○玉井委員 ありがとうございます。

○吉田市長 他にございますか。

では、私からいっぱいあるんですが、学校の教員というのは、裁量労働制の最たるものだと思うんですね。やっぱり時間管理というのは非常に重要なところだろうと思いますので、タイムカードを導入して、自己管理ということを植えつけていくというのは選択肢としては悪いことではないと思いますけれども、それをいかに管理職がフォローしているかというのは大事なことだと思います。

よく、国や県や市から報告ものとか、調査ものが多くて教員が時間を取られてしょうがないという話があるじゃないですか。これは県の検討協議会の中でも謳っていますよね。それってどうなんですか、実態として。減ってますか。

○高梨学校教育課長 感覚的には、減っていないかなと思いますけれども、教育委員会をとおして現場に下ろしていますので、教育委員会で処理できるものについては、教育委員会で処理するようにしており、なるべく現場に負担をかけないようにということは考えて進めておりますので、現場としては少し減ったと思ってもらえているのではないかと思います。

○吉田市長 例えば市の教育委員会としてそういう風に努力していると。実際のこういう働き方の改善に向けた取組が、現場の意見としてどうかというのを、聞きながらやらないと意味がないですよね。施策を並べるのは良いけど、これはみんなきれいに映りますけど、実際現場は

どう思っているかということを中心に把握して、教育に向けた時間を増やすということが、今教育長が言ったように目的なんでしょうから。

そして改善に向けた4つの施策、課題も含めてですけれども、これって三浦市が独自に取り組んでいることなのか、全国の各市の教育委員会が取り組んでいるものなのか、それはどうなんでしょうか。

○高梨学校教育課長 この取組自体については、三浦市の中で考えてやっておりますけれども、結果として各市町でも同様の取組はされていると思います。

○吉田市長 そこは横の連絡というのはあるんですか。

○高梨学校教育課長 はい。少なくとも逗子、三浦、葉山では情報を共有しながらやっております。

○吉田市長 やっぱり、さっき越智委員がおっしゃったように、個々人の差っていうのはともあると思うので、それを管理職がきちんと見極めて、校長、教頭、管理職はそこだけですか。

○及川教育長 グループリーダーのような形で、総括教諭も入ります。

○吉田市長 そういう管理する管理職の立場で、きちんと個々人の教員の能力というか、仕事の割合にはたぶんばらつきがあって、仕事のできる人というか、要領の良い人には仕事が集まるんだよね。それは企業でも、公務員でもどこも一緒じゃないですか。そういう教員間での業務量のバランスを保ってもらうためには、きちんと教育委員会として各学校の実態というのを掴んでいないと指導もできませんから。そこはしっかりとやってもらいたいです。

いずれにしても働き方改革というのは、大きなテーマとしてやらないといけないことですから。そういった思いで、学校現場も結構オーバーワークになっているというのは話を聞くと、改善に向けた取組というのは必要かなと思います。

だからきちんとこういう改善に向けた取組をやっているというのは当たり前のことだと思うんですよね。教育委員会として。それがきちんと現場に伝わって、現場で効果があるかどうかというのを検証してもらって、働き方の改善に向けた取組が進めばいいという風に思います。

○吉田市長 他によろしいですか。

○下里教育長職務代理 管理職が労務管理者としての意識を持つということを言われているんですが、今までの流れの中で、校長教頭がいきなり労務管理やれと言われても、おそらく難しいのではないかなと思うんです。ですから、例えば労働基準監督署のような所に行って労務管理の仕事の講習に参加するとか、そういう計画はないんでしょうか。

○高梨学校教育課長 そういった計画は今のところ立てておりません。

○下里教育長職務代理　私が思うに、やっぱり労務管理というのは労働基準監督署に行って、きちんとしたノウハウを学んでこないと、いきなり今まで教員をやってきた人が管理職になって、労務管理やれと言われても難しいんじゃないかなと思いますので、お考えになった方がいいんじゃないかなと思います。

○吉田市長　では、この働き方の改善についての報告についてはここで終わりにしたいと思います。今教育委員さんや我々がお話したことを受け取っていただいて、取り組んでいただきたいと思います。それで、経過なり効果というものを次の教育委員会もしくは総合教育会議で報告できるように、四半期とは言いませんが、半期ごとぐらいには報告できるようにお願いしたいと思います。

○吉田市長　では続いて、「(2)小学校の適正化について」を議題としたいと思います。事務局から説明をお願いします。

○増井教育総務課長　資料2、A3版のものになります。

平成27年度より、小学校の適正配置及び適正規模についてご協議、ご検討いただいておりますが、基本的には平成30年度中にこの基本方針を策定することといたしまして、平成29年度末に骨子案を総合教育会議においてご協議いただいております。そちらで取りまとめました骨子案の中では、資料記載の5つの点が大きな点としてございました。

1点目が、三浦市が目指すべき小学校の適正規模は、1学年複数学級が設置される児童数が確保される小学校であること。

2点目は、目指す規模を確保するためには、小学校を再編等が必要となってくるような児童数ですけれども、今までの学区ですとか、地域的なつながりを全く考えずに学区の大幅な再編をするということは、できるだけ避けるべきではないかということ。

3点目は、小学校の再編をしますと、より地域が広がってしまいまして、通学時間が長くなってしまいう可能性が高いので、通学時間の短縮や、交通用具の使用による家庭の経済的負担を軽減するような施策の実施検討が必要ではないかということ。

4点目は、再編には地区協議会による意見のとりまとめや、庁内検討組織による検討をへて、実際には行動に移ろうということ。

5点目が、小学校の再編完了まで少し時間を要するという事も予想されますので、その間の小規模になってしまう小学校の児童等には、教育的な配慮を行うことを検討する必要があるということ。以上の5点であったと考えております。

そちらの骨子案をもとに、基本的な方針をまとめようということで、事務局で検証する中で、少し課題が見えてきたと事務局としては認識いたしました。

前年度策定いたしました骨子案は、少し児童数と学校数に焦点を絞った記述での構成となっていたために、協議の中でいただいていた、今後の学校教育というもののためにというような部分が、少し記述として少なかった、見えにくかったかなという思いがあります。

そんな中で、骨子案のとおり数に焦点を絞った構成での方針として決定してしまうと、今後具体的な再編を行うに当たりまして、まだ賛否両論が残ってしまいまして、最終的な取りまとめが非常に困難になってしまうのではないかとということもございます。

骨子案の中で1学年複数学級ができることのメリットも記載いたしました。それだけでは小規模な小学校が良いという少数の意見もございましたので、そちらに対する説明としては少し十分とは言えませんでした。

また、再編を行いまして小学校の数を調整することによって、今後の三浦としての教育的な課題が全て解消するのかもしれないと思っております。そのことが小学校の再編で全て解決するんだなというような印象が出てしまうのは少し良くないのではないかと考えています。

総じては、再編後に三浦市の学校教育がどう進んでいくのかということが、骨子案としてまとめました中では少し見えにくかったかと事務局として考えたところです。

そちらの課題を踏まえまして、事務局として再考したところ、少し内容を変更し、すべては三浦市の子どもたちのために、ということをもとにした、学校教育のあり方を協議して、その基本方針に盛り込んだ上で、未来を見据えた三浦市の学校教育を明示したものと、適正配置の基本方針を決定することとしたいと、事務局として考えた次第でございます。

そこで、資料右側をご覧ください。（仮称）三浦市学校教育ビジョンと書かせていただきました。今までご検討いただいた基本方針をもとに、三浦の学校教育の未来像を示した計画を作りたいと考えるに至りました。

こちらのビジョンについては、なぜ少子時代の時代に対応した学校教育をすすめるのかをお示しいたしまして、小学校の適正規模・適正配置につきましては、その未来像を実現するための方策として、その基本方針をビジョンの中の一つとして明示したいと考えています。

なお、今までご検討いただきました結果については、平成28年度に実施しました市民のアンケートを反映したものであるために、踏襲する形でビジョンの中に入れていきたいと考えております。次に、外部意見の反映でございます。

今までなかなかできていなかったところがありますけれども、今後、（仮称）校長と教育委員のトーク&トークと書かせていただきましたが、ディスカッションの場を設けまして、テーマを絞った形で意見交換をしていただければと考えております。

その上で、ビジョンの策定前には、方法は検討中ですが、市民意見を聴取する場を設けるか、パブリックコメント、ホームページ等で案を示して広くインターネット上で意見をいただく形、いずれかの方法によりまして、市民意見をお聞きする時間を設けたいと思っております。

個別の地域の意見につきましては、このビジョンを策定後に、地区協議会によりましてお聞きする形ではどうかと考えております。

最後に平成31年度のスケジュールでございます。当初は平成30年度末までに策定といたしておりましたので、大変申し訳ありませんが、今しばらくお時間を頂戴して、平成31年度の4月には事務局内で協議いたしまして、先ほど申し上げました、教育委員の皆様と校長先生方との意見交換をしていただきまして、5月には定例教育委員会に（仮称）三浦市学校教育ビジョン（案）をお示しいたしまして、ご確認、ご意見をいただきたいと考えております。

その後市民意見をお聞きする時間を設けまして、その時間の長さにもよりますが、5月から6月にかけて、総合教育会議においてご協議をいただきまして、最終的な（仮称）三浦市学校教育ビジョンの策定をいたしたいと考えております。

少し当初の予定とは異なってしまいましたけれども、事務局としてはこのような考えでまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上で説明を終わります。

○吉田市長 説明は終わりましたが、資料をご覧になってご意見などございますか。

○吉田市長 もう3年も経っているんですね。3年あれば、学校を卒業しちゃいますよ。

教育長も代わったことだし、体制も代わったので、教育長からコメントしていただけますか。

○及川教育長 子どもが少なくなってきた、三浦市の特に小学校の規模が小さくなってきている状況がずっとある中で、この話題というのが出てきているのかなと思いますし、その中で数や規模に目が行きがちだったとは思っています。もちろん議論の中で、それだけではないということはあるんですけども、どうしてもそこに目が行ってしまっ、規模が大きいのがいいのか、小さいのがいいのかという部分での判断が多かったかなと。

ですが、それを踏まえて学校の再編、適正化というものがなされたとしても、そのままだと再編されて終わる、つまり再編することが目的になってしまっ、そこで終わってしまうような感じがします。

実はそうではなくて、そのことによって、どう三浦の子どもたちの教育を充実させていくのかというのが一番大切なところですので、再編したところをスタートにしなければ意味のない取組になっていくのかなと思います。

そういう風に考えた時には、将来的にどういう学校教育を目指していくのかということをも市としてきちんと打ち立てて、それに基づいた形で再編をして、再編したことに基づいてビジョン、三浦の学校教育のあり方というもの各々が目指していける、そんな体制を作ることが大切ではないかということで、今回の提案になったという風に思っています。

今、市長からもう3年だというお話もいただきましたけれども、悩ましいところなのでなかなか決断できなかったというのは事実としてあるのかなと思いますが、もうそうは言っていられません。待たないで思っていますので、これを機に更にスピードアップして進めていくことができたらと思っています。

○吉田市長 はい。それではちょっとスケジュールが遅れぎみですけども、教育委員会として一程度の、三浦市の学校教育の方向性というものを打ち出し直して、それに対して協議をしていただいて、ビジョンとしてまとめていくということで、スケジュールは今まで3年もかかっていたのにタイトだとは思いますが、無意味に3年過ごしていたわけではないので、それを考えれば、このスケジュールで少しまついかもしいけど、多少遅れてもいいと思うので、とりあえずは教育現場や、教育委員会で練っていただいて、ビジョンを打ち出していくということをお願いをしたいと思います。

子どもたちが決めるわけではないので、大人が子どもたちのために、どういった選択が一番良いかを考えることが必要ですので、それは保護者の皆さんや、教員の皆さん、地域の皆さん、万人が納得するようにしていただきたいですね。でも三浦市として、それで行こうと決めたら、ぶれないでそれに向かって、教育委員会、学校一丸となっていくというのが大事だと思います。

ので、骨子案のところをきちんと作ってもらって、意見を求めるということでやっていきたい
と思います。

○吉田市長　　よろしいですか。教育委員さんから何かございますか。

○下里教育長職務代理　先ほどの資料1の中で、三浦らしい教職員の働き方改革ということで、
「三浦らしい」というところが妙に引っかかるんですね。地域に密着した、地域に根差したと
いうことをおっしゃっていましたが、逆に小学校の適正規模について進めていくと、それが非
常にブレーキになってしまうような気がします。ですからそこを、教育委員の一員として、三
浦らしいという言葉の解釈を考えていかないとブレーキになってしまうような気がします。

それともう1点。この問題は非常に難しく、お隣の横須賀市においても何年も検討されて
いますが、まだ1校も統廃合がまとまったことがないんですね。統合によってできた桜小学校
がありますが、あれはまた別の問題で、今検討の課題に挙がっている学校は、まだまだ統廃合
できていないというのが現状なんです、非常に難しい問題だと思います。今市長がおっしゃ
ったような形で進んでいってもらえば、非常に良い形でまとまっていくんじゃないかなと思
いますので、よろしく願いいたします。

○及川教育長　先ほどの資料1の「三浦らしい」というところですが、お話が出たので、付け
加えてお話しさせていただきます。

先ほど言いにくかったので言わなかったですけども、働き方改革ということを進めていく
と、どうしても人の配置ですとか、予算の確保ですとか、そういう話になっていく場合が多い
んです。国や県でもそうですけれども、示しているものの中には人の配置などについても書か
れている。

三浦らしいというところでは、そここのところに結論を持っていくような話にはしないとい
う、というのが三浦らしさだという認識で校長たちは話し合っています。ですから、各学校の
取組のところでも、人の配置ですとか、予算の確保については触れていないんですね。今のパ
ワーの中で何ができるかということで考えていくということですので、そういう働き方改革の
ところの、校長会が取り組んでいる「三浦らしい」ということについては、そういう意味合い
だにご理解いただければと思います。

○吉田市長　　はい。ではよろしいでしょうか。

では、三浦市立小学校の適正化については、このスケジュールで進めるということでやって
いただいて、再度教育委員会及び総合教育会議で練るということをお願いします。

○吉田市長　　次に「(3)その他」についてですが、皆さんから何かございますか。

○吉田市長　　よろしいですか。

それでは議事を終了いたしまして、進行を司会に戻させていただきます。

○君島教育部長　　ありがとうございました。

本日予定させていただきました内容はすべて終了いたしましたので、以上をもちまして、第1回総合教育会議を終了いたします。傍聴者の方はご退出ください。
ありがとうございました。

◇ 午後2時19分 閉会 ◇
